

IPCCの2007年気候変動統合報告書 (Climate Change 2007: Synthesis Report) (2007年)における海面上昇量予測

下表のとおり地球温暖化ガス排出シナリオ別にシミュレーション結果に基づく海面上昇量予測結果が示されているが、海面上昇を引き起こすいくつかの重要な影響の理解が極めて限られているため、生起する可能性、最も確かな予測値、予測上限値は示されていない。これらの予測には気候-炭素循環フィードバック(気温上昇による大気中の二酸化炭素の陸域・海洋への取込み量の減少等)の不確実性及び氷河の流れの変化の全影響は含まれていない。したがって、同表の大きい方の値を海面上昇量の上限値ととらえてはいけない。

なお、氷河の流速が全球平均気温に一次比例する場合には、下表の値はさらに0.1～0.2m増大する。

表 2090～2099年の全球平均海面上昇量予測(1980～1999年比)

ケース	海面上昇量 m
B1シナリオ	0.18-0.38
A1Tシナリオ	0.20-0.45
B2シナリオ	0.20-0.43
A1Bシナリオ	0.21-0.48
A2シナリオ	0.23-0.51
A1FIシナリオ	0.26-0.59

※ (IPCC 2007)45頁のTable3.1より作成
※ 各シナリオの2100年時点の大気中の温室効果ガスの二酸化炭素相当濃度はB1、A1T、B2、A1B、A2、A1FIについて概略で各600、700、800、850、1,250、1,550ppmである。